

春 日進キャンパス

5月12日(土)
10:00~12:00

テーマ

社会の変化とことば
～検索上位ワードが社会を変える?～

愛知学院大学経営学部教授 内藤 勲

秋 名城公園キャンパス

10月18日(木)
18:00~20:00

私たちはことばを介して、あるいはことばを付随させながら社会で起きる出来事を経験しています。私たちはことばで世界を切り分けて理解しています。選挙制度のような社会制度や新卒者の就職活動のような社会文化についての経験がことばにされることでそれについての社会的な知識が形成され、社会制度や社会文化についての社会的な知識の形成がその制度や文化を強化することになります。したがって、私たちは私たちの社会の未来をことばで表現することによってこれから社会で起きる出来事を導いています。結果として、ことばで表現することが社会を形づくることになるのです。

もちろん、ことばがすべてではありません。しかし、我々は社会で生起しているモノ・コトを純粹に見ているのでもなく、体験しているのでもありません。ことばを介して、あるいはことばを付随させながら経験しているのです。日常的に使っていることばを例としながら、私たちが自らの経験を整理するに際して、ことばによる表現に依拠していることを話したいと思います。



講師紹介：ないとう いさお

専攻：組織論、イノベーション論

略歴：岐阜県出身。名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学。名古屋大学経済学部助手、愛知学院大学経営学部講師、助教授を経て現職

主な著書：『表象の組織論』（共編著）中央経済社、2016年。『はじめて出会う経営学』（編著）中央経済社、2016年

春 日進キャンパス

5月19日(土)
10:00~12:00

テーマ

ことばの治療に懸ける思い
～ことばはヒトが自身の意志を伝える上で
非常に重要な手段です～

歯学博士 医学博士 愛知学院大学歯学部教授 夏目 長門

秋 名城公園キャンパス

10月25日(木)
18:00~20:00

私が科長を務める愛知学院大学歯学部附属病院言語治療部門は、中部地方では、最も古いことば（器質性構音障害）の治療センターとして、55年の実績があり、年間5,000名の方々の治療を行っています。

私達はことばを通じて、互いの意志を伝えあい、情報を共有し、信頼関係や絆を深めており、ことばはコミュニケーションを取る上での最大の手段と言っても過言ではありません。ことばの発声には、私達の身体の様々な機能が関係していますが、ケガや加齢、先天的、後天的な病気等によって、ことばを失った場合の障害の実際、また具体的な治療の方法について、一般の方々にも分かり易く説明するとともに、ことばを相手に伝える時の話者による終助詞の付加や、話す速度による聴取者の受け取り方など、ことばの力と大切さについて科学的に解説させていただきます。

後半では、ことばを通じた認知症予防について、最新の情報を提供したいと思います。普段、当たり前のよう発生していることばについて、医学的、心理的な観点から改めて考えてみましょう。



講師紹介：なつめ ながと

専攻：口腔外科学、言語治療学、国際交流学、口腔ケア学

略歴：1999/11～愛知学院大学歯学部附属病院口唇口蓋裂センター部長 2001/01～愛知学院大学歯学部附属病院言語治療外来科長 2006/04～愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室特殊診療科教授 2007/04～愛知学院大学歯学部寄附講座「口腔先天異常遺伝学・言語学講座」兼任特殊診療科教授

主な著書・論文：2016.2『ATLAS of Oral Disease』Quintessence Publishing Co., Ltd.(Tokyo) 他著書80冊 2009.3 Mutations in BMP4 are associated with subepithelial, microform, and overt cleft lip. American Journal of Human Genetics, 84(3), pp. 406-411, 2009. 2006.3 A SNP in the ABCC11 gene is the determinant of human earwax type. Nature Genetics, 38(3), pp. 324-330, 2006. 2004.8 Interferon regulatory factor 6 (IRF6) gene variants and the risk of isolated cleft lip or palate. New England Journal of Medicine, 351(8), pp. 769-780, 2004. 他論文427編

※春季日進キャンパス公開講座と秋季名城公園キャンパス公開講座は同じテーマ、内容となりますが、申込みは別となります。

春 日進キャンパス

5月26日(土)
10:00~12:00

テーマ

演劇が持つことばの力
～ブロードウェイとブッシュ、オバマ、トランプ～

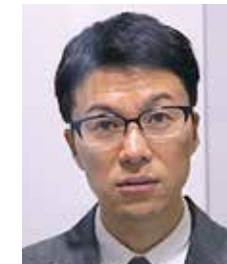
愛知学院大学教養部准教授 藤田 淳志

秋 名城公園キャンパス

11月1日(木)
18:00~20:00

ブロードウェイに代表されるアメリカ演劇は、常にアメリカを映す鏡であり続けてきました。代表的なブロードウェイミュージカルや演劇を紹介しながら、作品が上演された時点の政治や社会の状況について見ていきます。それぞれの作品はその当時起きた事件や、政治家の発言など具体的な事象と関連づけられることがわかります。それは製作者があらかじめ意図していることあれば、必ずしもそうでないこともあります。作品はニューヨーク、ブロードウェイの劇場で上演され始めた以降も、アメリカ社会の影響を受けて様々に解釈され、時には社会に影響を与えます。現代アメリカを考える上で重要な、人種、宗教、セクシュアリティなどをテーマとして扱う作品を取り上げます。

特にブッシュ大統領以降、オバマを経てトランプに至るアメリカの政治と文化・社会を劇やミュージカルを通して読み解きます。演劇にセリフという形で現れることばの力、またオバマの演説やトランプの悪名高いツイートに表れたことばが持った力についても考えたいと思います。



講師紹介：ふじた あつし

専攻：アメリカ演劇

略歴：名古屋大学国際言語文化研究科博士後期課程満期退学 文学博士 愛知学院大学教養部講師を経て現職 2012-2013年 ニューヨーク市立大学大学院センターにて在外研究員

主な著書・論文：『たたかうLGBT&アート』（共著・法律文化社）、『ジェンダーと「自由」—理論、リベラリズム、クィア』（共著・彩流社）、『Tony Kushner: New Essays on the Art and Politics of the Plays』（共著・McFarland）

春 日進キャンパス

6月2日(土)
10:00~12:00

テーマ

ことばの力と旅の力
～外国で知る日本×日本への旅を通して知る日本。
言葉とイメージを探る～

愛知学院大学文学部准教授 グレゴリー・L・ロウ

秋 名城公園キャンパス

11月8日(木)
18:00~20:00

ヨーロッパ人が日本の存在を最初に知ったのはマルコポーロ(1254-1324)の言葉を通してであった。14世紀初めから、ヨーロッパ人はマルコポーロが描いた「日本」をやっきになって探した。言葉の力が、旅行者、探検家、伝道師、商人、観光客、そして留学生たちを日本へ引きよせたのだ。

当初ヨーロッパの人たちが抱いた日本のイメージは、日本人そのものや日本という土地の景観ではなく、むしろ日本の地図にあった。ごく限られた情報の中で、地図製作者のアブラハム・オルテリウス(1527-98)は、世界の中での日本の位置、その形、大きさや主要都市の所在地について、ヨーロッパの人々に伝えようとした。

日本や日本人について本格的に執筆した最初のヨーロッパ人はキリスト教の宣教師で、江戸時代には日本から西欧にもたらされたほとんどの書物や視覚イメージは、日本在住のオランダ商人の手によるものとなった。エンゲルベルト・ケンペル(1651~1716)はその1人で、長崎と江戸を何度も往復し、日本人の印象と彼らの日常生活や習慣について語っている。

明治末期には、より多くの外国人旅行者が日本を訪れ、日本での経験を書いている。それらの旅行記や体験記の言葉やイメージにひかれて、さらに多くの人々が来日し、日本を実体験をすることとなった。

この講義では、西洋人の日本への旅行の歴史における言葉とイメージの「影響力」について考察したい。



講師紹介：グレゴリー・L・ロウ

専攻：異文化研究、視覚文化研究、旅文化研究

略歴：米国シカゴ出身。コロンビア大学大学院文芸学研究科アメリカ研究専攻修士課程修了。平成19年より愛知学院大学文学部准教授。グローバル英語学科。

主な著書・論文：Charles Bird King and the Indian Gallery: Image and Perception in Nineteenth Century Native American Portraiture『芸術工学への誘い』VI (pp. 106-136、岐阜新聞社)、The Age of Return: Context and Identity in Native American Repatriation『人間文化』第18号愛知学院大学人間文化研究所、Japan, Old and New: (Re)Framing the Visual Culture of the Bakumatsu-Meiji Periods『愛知学院大学文学部紀要』第41号など。

※春季日進キャンパス公開講座と秋季名城公園キャンパス公開講座は同じテーマ、内容となりますが、申込みは別となります。